

◆ 地域活動

八重山漁協青年部活動支援

八重山農林水産振興センター 牧野清人

1. 目的

八重山漁協青年部は離島漁業再生支援交付金等により、漁業体験等の担い手育成活動や沿岸魚資源管理、サラサバテイ（タカセガイ）放流を中心とした栽培漁業、地元水産物の宣伝や地産地消を目的としたイベント等を行っている。八重山地区の普及指導業務としてこうした活動を支援した。

2. 内容

1) 体験漁業

平成24年2月26日に青年部主催の体験漁業を開催した。対象は石垣第二中学校ハンドボール部約20名、教員、PTA合わせて約25名であった。朝8時に海人館に集合し、漁協青年部からの説明後、漁協荷捌場にてセリの見学を行い、石垣市の種苗施設とウミブドウ養殖施設を見学した。石垣市種苗施設においてはタイマイの飼育試験とモズクの種付けについて現場説明した。ウミブドウ養殖施設においては漁協ウミブドウ養殖研究会の会員の方にウミブドウ養殖に関する一連の作業について説明していただいた。その後、魚類養殖場に移動し、漁協イセスから出荷用ヤイトハタの水揚げを生徒たちに体験させた。水揚げしたヤイトハタは漁協に持ち帰り、青年部の指導の下、3枚下ろしに挑戦させた。その後は昼食となり、昼食のメニューとしてマグロそば、握りずし、ヤイトハタのバター焼きを食べてもらった。昼食後、漁業者が行っている沿岸漁の資源管理について普及指導員が説明し、生徒側の挨拶後片付けし、体験漁業を修了した。

2) タカセガイ種苗放流

平成24年11月に沖縄県において開催予定の全

国豊かな海づくり大会におけるイベントとして、天皇陛下からの放流種苗お手渡しが行われる。放流用種苗の一つとしてタカセガイが予定されており、この中間育成を八重山地区で漁協青年部が主体となり行うこととなった。中間育成は県栽培漁業センターより配布された殻径5mmほどの種苗を育成礁内に放流し、9ヶ月間この中で成長させ、30mm程度になった稚貝を取り上げることにした。2月8日に真栄里沖の育成礁、9日に石垣沖約2kmにある育成礁の清掃作業を八重山漁協青年部とともにいった。清掃は主に育成礁内のグレーチングを取り外し、ワイヤーブラシ等で掃除して元に戻すといった作業であった。また、10日に種苗を受け取り、一晩石垣市の種苗施設の陸上タンクに収容し、翌日育成礁に放流した。放流数は約140,000個であった。

3) 資源管理ブイ作成

八重山地区では、クチナギ等、沿岸魚類の産卵時期に資源管理を行い、魚類の乱獲防止のため、石垣島近海5箇所にて4月から6月までの間、禁漁期を設けている。2月1日～2日の間、漁協青年部に協力し、禁漁区の目印となるブイの作成作業を行った。資源管理用のブイには「資源管理」と明記し、黒い旗ならびに点滅等を取り付けた。

4) おさかな祭り

八重山漁協荷捌き施設において、第10回おさかな祭りが開催された。イベントではマグロ解体ショーやモズクつかみ取りの他、鮮魚の無料配布を行った。漁協青年部では地元鮮魚（イラブチャー、ミーバイ、イカ、シャコガイ等）やまぐろそば、海鮮丼の販売の他、カメやヤイトハタの展示を行い、水産海洋研究センター石垣支所はシャコガイ、ヤイトハタ稚魚の水槽展

示、試験研究内容についてのパネル展示を行った。漁協女性部は天ぷらやイカスミ汁、アーサ汁の販売を行った。農林水産振興センターでは普及指導活動の紹介として、漁協青年部や女性部と協力して行っている漁業体験、魚食普及活動の他、資源管理への協力依頼、漁業調整規則についてのパネル展示を行った。その他、環境省や港湾事務所によるサンゴ礁の復元等のパネル展示も行われた。お魚祭りの来場者はかなり多く、午前中に行われたマグロ解体ショーが特に目を引いたようであった。また、青年部や女性部が用意した食材はすべて完売であった。



体験漁業（漁協セリ見学）



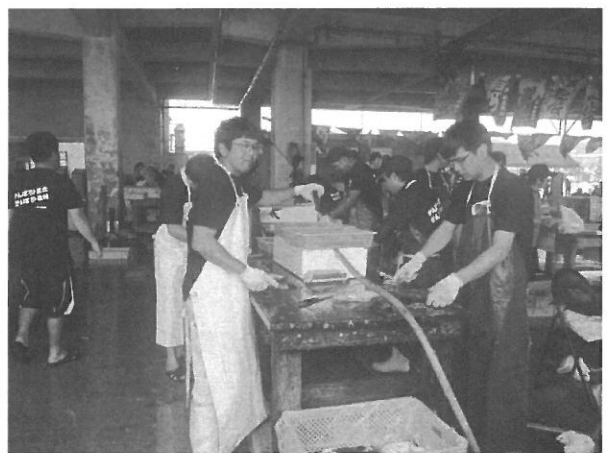
体験漁業（ヤイトハタ水揚げ）



タカセガイ種苗法流（育成礁の清掃作業）



資源管理ブイ作成作業



おさかな祭り（鮮魚直売）